

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 教養を高めるとともに社会規範にのっとり確かな判断ができ、自立できる若者の育成を図る。
- 2 現代社会における農業の意義や役割についての理解をもとに技能や科学的な知識を習得させるとともに専門性を高め、正しい勤労観や誠実な態度、創造性を身につけた社会に貢献できる若者および人間性豊かな若者の育成を図る。
- 3 生徒、保護者から信頼され、地域社会から必要とされる学校をめざす。
- 4 すべての教職員及び生徒があらゆる人と、ともに学びともに生きる社会づくりをめざす。

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と定着
  - (1) 各普通教科（英語、数学、国語）の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。
    - ア 基礎学力の充実
      - 1年次に外部の基礎学力調査を使用し、英語、数学、国語の学習内容の復習を行い専門高校生に必要な基礎学力を身につけさせる。
      - \*1年次の普通教科（特に英語、数学、国語）に関する苦手意識をなくす。外部基礎学力調査の進路指導への活用。
    - イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善
      - 各科、各コースで育てたい生徒像を明確にする。その実現のために必要なカリキュラムの開発、授業方法、普通教科や他の教科との連携を行う。
      - 特にSSH事業や課題研究の時間を有効に使い、課題解決能力の育成を図る。また、定期的な研究授業が開催の定常化を完成する。
      - \*研究授業の定着及び授業見学週間の設定と全教員の参加。SSH事業の校内での更なる発展、広がり。
- 2 キャリア教育の充実と進路実現
  - (1) 専門知識・技術を習得させ、それを生かした進路指導、進路実現をめざす。
    - ア 早い段階から進路についての意識づけを行う
      - 進路指導部、農場部及び科が連携し、生徒の進路指導方針（就職先、進学先など）を具体化する。
      - 3年間の早い段階から、システム化された進路指導を行い、就職、進学希望者の確定を行う。
      - 就職希望者には、農業現場も含めた企業実習、見学を企画し望ましい勤労観・職業観を身につけさせる。
      - 進学希望者には、確実な学力を身につけさせるため、選択科目の改善などカリキュラムの編成を考えるとともに、論文、英語、数学、国語などの力を高めるための指導体制をつくる。
      - \*就職率100%（関連産業への比率は高いほどよし）、国公立大学への進学者 毎年5名以上を達成する。
    - イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る
      - 施設、設備の整備、改修を進め、より快適な校内環境の実現をめざす。
      - 校地の整備を行い、めぐまれた校庭・農地等を地域に開放し、地域の住環境への貢献（定期的な販売実習、庭木の手入れ、公共施設の花装飾など）及び地域の人のふれあい（園芸講習会、技術指導など）により、生徒の心の成長やコミュニケーション力の強化を図る。
      - \*生徒主体の地域貢献活動の展開（全生徒の30%以上の参加）。
    - ウ 農業クラブ等研究活動の活性化とSSH事業の確かな成果をめざす。
      - 農業科目とも大きく関連する農業クラブを更に活性化させることにより、生徒の知識、技術を向上させ、達成感を多く味あわせることにより科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。また、関連分野を中心に各種資格の習得をめざす。そのために、SSH事業を完成に向けて推進するとともに、農場部が中心となり各科における農業クラブのあり方の現状を把握し、校内的な位置づけを明確化する。
      - \*農業クラブ全国大会大阪大会（H28）の成功と大阪の上位入賞をめざす。各課題研究班、農業クラブは各種発表会、競技会などに1部門以上にエントリーする。
- 3 中途退学・不登校の減少への取組み
  - (1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る
    - ア 総務部を中心に今まで以上に中学校との連携を強化するとともに、体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実を図り、不本意入学生徒を一人でも減らす。
    - 入学生徒に関しては少しでも多くの情報を中学校、家庭から早い段階で入手し、初期段階での指導に生かす。そのため、中学校訪問や懇談会などを企画する。
    - \*日頃からの中学校・家庭との連絡、協力体制の構築
  - (2) 教育相談体制のさらなる充実を図る
    - ア 外部団体との連携システムを構築するとともに教育相談委員長を中心とした教育相談委員会を強固なものにする。生徒の情報をこまめに収集し、的確に対応する。
    - \*生徒がいつでも相談できる相談員の常駐体制の構築
- 4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。
  - (1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る
    - ア 生活指導部と学年団が連携し、授業中の私語、机上の不要物禁止を更に徹底するとともに、生徒指導上の問題にきめ細かく対応する。現在行われている授業中注意3回制度を有効に生かし、全ての教員の取組みや授業が有意義に進行するようにする。また、そのためにも教室の美化をはじめ雰囲気づくりにも取り組む。
    - 日頃から生徒の礼儀（挨拶、言葉づかい、服装）について全教員で指導する。
    - \*すべての授業が整然と行われ、勉学に活気のある教室にする。生徒アンケートにより、授業環境満足度を調査し、平均80%以上にする。
    - \*学年団体制をさらに発展させ、学年団の中に主要分掌のミニ支所があり、各分掌と綿密に連絡をとれるようにする。
  - (2) 学科、校内組織の再編成を行う
    - ア 各生徒の将来への目標を早い段階から決定させ、それを実現させるべく、教員の少人数グループを活用し、より綿密に丁寧な指導体制をつくる。
    - また、農業の6次産業化や周辺産業への進路にも対応する。そのため、現行の3科を以下の5科（仮称）に再編成することについて府教育委員会とともに検討する。
    - フラワーファクトリ科――草花の栽培技術・流通・デザインについて学習し、生活に草花を取り入れる技術者を育成する。
    - 都市園芸科――園芸の栽培技術・流通・安全・環境について学習し、都市園芸を発展させる技術者を育成する。
    - 環境緑化科――緑化・造園技術・景観設計について学習し、生活環境の向上に貢献できる技術者を育成する。
    - 生命科学科――バイオテクノロジーと食・環境との関連を科学的に学び、バイオ技術を食生活環境に活かす人材を育成する。
    - 食品科学科――加工食品の創作・改良を通じて食品を科学的に学び、より良い食生活環境を追求する人材を育成する。
    - \*生徒一人一人の個性を生かしたきめ細やかな専門教育が行える。各科の生徒の希望進路達成度を80%にする。
    - イ 学年団を更に有効に機能させる。すべての面で担任をサポートできるように、学年主任を中心に各分掌と連携をとれる体制をつくる。
    - \*若手、中堅、ベテランが生徒指導のために、協力して職務を遂行する。
    - ウ 古い体制を見直しつつ将来のあり方を常に検討する。
    - \*校務検討委員会の存在を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<生徒> (総数 500) (満足度が高い項目) 9割以上の生徒・・・学校の特色、施設設備	<第1回>5月13日(土)開催 ・協議内容と委員からの意見 (1) 本年度の学校経営計画

## 府立園芸高等学校

<p>8割以上の生徒・・・就職に有利 7割以上の生徒・・・学校に満足、楽しい 真面目に授業を受けている 資格取得 挨拶</p> <p>(満足度の低い項目) 3割の生徒・・・ボランティア活動への参加 4割の生徒・・・制服の満足度 生徒会、農業クラブ活動 5割の生徒・・・生徒会クラブ</p> <p>*学年が進行するほど、目標、資格取得、地域交流、教員との関係などの項目が高い評価を得ている。学科間で比較すると、環境緑化科の評価は高く、バイオサイエンス科が低い。</p> <p>&lt;教員&gt; (総数 44) (評価が高い項目) 9割以上の教員・・・教育相談体制 8割以上の教員・・・教員間 成績不振生徒への指導 学校の特色 指導要録点検 7割以上の教員・・・教育活動の計画性 問題行動への対応 進路指導 人権尊重 地域連携 服務規律 研究授業</p> <p>(評価が低い項目) 校則の適切性 HR活動 生徒会活動 部活動 校内人事や分掌活動とその連携 施設設備の整備 研修報告</p> <p>(昨年度より 10 ポイント以上アップの項目) 成績不振生徒への指導 教育相談体制 校長のリーダーシップ 事故などへの対応 施設設備点検 施設設備の整備 校内研修</p> <p>(昨年度より 10 ポイント以上ダウンの項目) 評価についての話し合い AV機器活用 興味関心に応じた進路指導 偏見や差別・障害者理解の指導</p> <p>&lt;保護者&gt; (総数 63) (高評価) ほとんどの項目で評価が高い。特に進路、特色ある教育、学校の雰囲気、子供の積極的な行事参加は9割以上の評価。</p> <p>(低評価) 5割未満の項目はない。</p> <p>(経年比較) 多くの項目で評価が上がっている。特に進路関係は19ポイントアップ、学校の雰囲気は17ポイントアップと大幅な上昇が見られる。生徒の経年変化と連動している。</p>	<p>・中学校からの受験生について 昨年度は前期選抜で普通科の受験が多かった。(学力で受験先を選ぶ傾向があった) 本年度はやりたい生徒が園芸高校を選ぶ傾向が強い。</p> <p>・基礎学力向上への取組について 中学校もよりこの取組には力を入れていきたい。小中高の連携も必要であろう。</p> <p>・中退防止などについて ミスマッチなどの調査も取り入れてはどうか。SSH事業への参加を希望して入学してきたかなどの調査も必要。</p> <p>(2) 授業アンケートの実施 ・中学校では生徒対象、小学校では児童・保護者対象で実施している。 ・池田市のある中学校ではアンケートデータを生かして、授業改革を進めている。参考にしてはどうか。 ・実業教科に比べ、生徒評価の低い座学をどうするかを検討するのではなく、それを園芸高校の特色だと捉えて全体として高めていくことが重要である。</p> <p>(3) 本校の現状報告 ①学習面 ②生活面 ・近年、生徒が落ち着いており近隣中学校へはいい影響を与えている。</p> <p>(4) 本年度の検討課題 ・広報について(最近よくマスコミに出ているが、あまり受験生増加にはつながっていないのではないか)。 →記念祭でテレビ取材を受けた映像を流し続ける。 →正門前に防水テレビを設置する。 →放映日をHPなどで広めてはどうか。スマホなどで簡単に見ることができないか。 ・制服を改善してはどうか。</p> <p>&lt;第2回&gt;10月31日(金)実施 ・協議内容と委員からの意見 (1) 授業見学を終えて ・大変静かに授業が展開されていて良かった。 ・進学希望生徒への対応も必要であろう。 ・数学の少人数展開は良い。池田市では英語に力を入れており、小学校からALTを導入している。ぜひ、英語でも少人数展開を取り入れてほしい。 ・実習教科と座学のより一層の連携が必要であろう。</p> <p>(2) 本年度の進捗状況について ・順調に進行しているようで安心した。SSH事業に関わる生徒、教員の更なる増加を期待したい。</p> <p>(3) 授業アンケート(1回目)の結果について ・全体的に高い評価が出ており、生徒が満足していると思われる。</p> <p>(4) 学校教育自己診断の項目について ・是非、経年変化をデータ化し検討してほしい。</p> <p>&lt;第3回&gt;2月28日(土)実施 ・学校からの報告を受けての委員からの意見 &lt;A委員&gt;・自己診断や授業アンケートなどの結果が本当に今の生徒の現状に合っているのかをよく見極めることが重要である。それよりも、出欠や遅刻、進路などのデータを定期的にとり、変化をみることも大切。 授業アンケートで高ポイントの授業がいいとは限らない。受けのいい授業=良い授業ではない。学校のアピールとして、興味・関心のある生徒を強く入学させる方向が必要(定員割れがすべて悪いことではない) 中学校の成績が低くても、興味が高い子供は本校では伸びる。</p> <p>&lt;B委員&gt;・PTAの役員からは評価がとても高い。まだまだ中学生には園芸が謎の部分がある。よりわかりやすいアピールを。子どものSSH事業を受けてよかったと感じている。在校生のアンケートデータに一喜一憂する必要はない。卒業後この学校の良さがわかる。PTA新聞をぜひ近隣中学校に配布してほしい。</p> <p>&lt;C委員&gt;・府のアンケート項目などは、普通科を基準にしているので、実業高校はあまり敏感でなくてもよいのでは。校長はもっとその点をアピールすべき。基礎学力の効果はすぐには出ないから、ぜひ継続してほしい。SSH活動は大変高度なことをよくやっている。遅刻者数などをもっと生徒の身近なところに常に目に入るようにしてはどうか。 実業高校がより連携して、専門教科の深化をアピールすべき。倍率が割れても、コアな生徒でやっていくぐらいの意気が必要である。</p> <p>&lt;D委員&gt;・傍の中学校として、いい影響を与えてくれている。次年度以降の入試が心配である。技術・知識を身につけたい生徒を送り込みたいが、現実には成績が決まっていく。中学生が園芸を好きになる取組をぜひ、見せてほしい。北摂はエリート意識、普通科志望が強く、中学校でも塾の助言の力が大きい。園芸が視野に入りにくい。自己診断の保護者の評価が高いのはよい。ただ、低評価をつけた生徒の分析も大切である。</p>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と定着	(1)各普通教科(英語、数学、国語)の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。 ア 基礎学力の充実 イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善	(1) ア・現在取り入れている外部基礎学力調査、外部テストの更なる有効利用を検討する。基礎学力講座の担当教員を固定化し、生徒の学習変化を的確に把握する。 ・授業評価の項目などを再検討し生徒の授業への理解度向上などが図れるようにする。 イ・授業見学週間を設定し、教員は1回以上授業見学を行う。 ・研究授業の継続	ア・学習態度や学習到達度の向上が見られたか。 ・生徒の授業理解度全学年8割以上をめざす。 イ・全員が授業見学を1回以上行い見学記録を該当教員に提出できたか。 ・研究授業参加者数 H25 度以上 (H25 16名)	ア・外部テストについては、取組前と取組後に行った課題テストの得点結果によると、一定の効果が見られた。(特に国語) (○) ・授業アンケートの結果より、以下の項目に注目し分析を行った。a 授業規律面 平均 3.12 b 興味・関心 平均 3.13 c 知識・技能 平均 3.16 4点満点なのでほぼ8割に近い数字で生徒は授業に理解、満足していると思われる。(○) イ・日頃のチームティーチングが結構多い影響もあると思われるが、目標は達成できていない (△) ・研究授業(初任者、指導教諭、中堅教諭による)は前年度より多くの教員が参加した。(H26 20名) (○)
2 キャリア教育の充実と進路実現	2 キャリア教育の充実と進路実現 ア 早い段階から進路についての意識づけを行う イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る ウ 農業クラブ等研究活動の活性化とSSH事業の確かな成果をめざす	ア・外部基礎学力調査の導入 ・卒業生、外部企業人等による、社会人・職業人としてのスキルを磨く機会を多く設ける。 イ・定期的な販売実習、公共施設の緑化管理などの頻度、参加数を増加させる。 ウ・本校の望ましい農業クラブのあり方を検討する。 ・課題研究班、農業クラブは農業クラブ行事やSSH事業、外部団体主催各種コンクール、競技会などに1部門以上エントリーする。 ・担任や生徒指導部でのアルバイト許可願のチェックを強化し、放課後活動(農業クラブ、生徒会クラブ活動)の活性化を図る。 ・進路実現に向けて、3科協力のもとに関連各種資格の取得推進を強化する。 ・SSH事業の成果認証を行う。(カリキュラムの有効性、科学技術、国際性の向上)	ア・就職進学希望 100%達成 ・国公立大学3名以上 ・外部基礎学力調査を有効に活用できたか。 イ・販売実習実施回数 H25 32回以上 地域貢献数 H2510以上 ウ・農業クラブ全国大会優秀賞数3名以上 各種コンクール、競技会へのエントリー数 H25 61 (SSH以外)以上 ・クラブ加入率の増加 (H25 農業ク 56.3%、生徒会ク 32.9%) ・資格取得数の増加 (H25 468) ・SSH事業の完成 カリキュラムの成果、資格取得の成果においてSSH専攻生の優位	ア・1.13 現在11名が未決定(成績不振者も含む)年度末まで粘り強く指導、支援を行う。(△) ・国公立大学へは3名が合格した。(○) ・学年により差があった。1年生は有意義に取り組んでいる部分が多かった。学年が上がるにつれ、取り組みなどで不十分さが多くなった。教員が懇談などに利用している面も同様である。(○) イ・昨年度までは不定期に実施してきた野菜の地域向け販売会を本年度は月1の定期市として定着できた。結果、野菜部門、果樹部門、花部門、加工部門など把握できているだけで40回以上実施できた。(◎) 従来から実施してきた地域保育園、幼稚園、小学生への校内開放や自治体や企業への技術指導や交流活動は例年どおり実施できた。野菜の収穫体験など新たな取組も行うことができた。(○) ウ・農業クラブ全国大会では、健闘したが優秀者を出すことはできなかった。(△) 各種コンクールや競技会には本年度も積極的に参加させることができた。(○) ・クラブ加入率・農業クラブ 33.2% 生徒会クラブ 32.8% (△) ・資格取得数・H26 565 (○) ・SSH事業は3年目を無事終えることができ、一定の成果をあげている。関わる教員数や生徒数が増加した。また、SSH専攻生の専門性への意識向上もアンケート結果から見られた。(○)
3 中途退学・不登校の減少への取組み	(1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る ア 中学校との連携を強化、体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実。 中学校、進学塾訪問や懇談会の企画。 (2) 教育相談体制のさらなる充実を図る ア 教育相談委員長の指導性を確立する	(1) ア・中学校教員への説明会の参加者の更なる増加を図る ・中学生保護者向け説明会の開催。 ・広報プリントの更なる充実を行い、中学生保護者等にも配布を図るとともに塾や近隣の中学校訪問を継続する。 (2) ア・新たに選出された委員長と担当首席が中心となり、校内での教育相談体制を確立する。個別支援カードの効果的な利用法を探る。	(1) ア・中学校教員の参加者数 ・保護者説明会参加者数 ・年2回以上の発行 訪問数それぞれ H25 以上 (2) ア・教育相談委員長の指導性が発揮されたか ・個別の問題生徒への対応をすべく、的確に相談委員会が開催されたか ・H25 並みに開催されたか ・外部との連携がスムーズにとれたか ・個別支援カードが有効に活用できたか	(1) ア・2回の学校説明会には生徒、保護者は例年通りの参加者であった。(2回実施 411名) 体験入学は日程を例年とは違い少し早めた結果、地域中学校との行事日と重なり、特に中学校教員の参加者数は少なかった。(1回実施 242名) (△) ・広報プリントは2回発行し広報関係に有効に使った。塾訪問や近隣中学校での出前授業など、昨年より積極的に実施した。(中学校での説明会8校、出前授業4校、見学訪問者対応8組) (○) (2) ・校内での人間関係で問題のあった生徒、保護者の対応を中心に的確に会議をもち対処できた。それ以外の生徒についても、その都度個別に対処でき、相談委員会として有効に機能した。(◎) ・個別支援カードについては、精査し分析できた。結果として特に問題生徒はいなかった。(○)

## 府立園芸高等学校

<p>4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。</p>	<p>(1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る ア 授業中の私語、机上の不要物禁止の徹底。教室の美化。日頃から生徒の礼儀(挨拶、言葉づかい、服装)に全教員で指導する。 (2) 学科、校内組織の再編成を行う ア 5学科構想 イ 学年団の発展</p>	<p>(1) ア・授業中の私語厳禁や机上の不要物なしの指導を更に強化する。 ・担任、授業担当者が生徒との会話において、言葉づかいに常に注意を払う。また、教室の美化にも努める。それに関するアンケート(生徒、教員向け)を実施する。 (2) ア・農場部が中心となり、学科再編の検討を進める イ・学年団を生徒指導の核として有効に機能させ、各分掌や副担任とのより緊密な連携を担当が取れるようにする。</p>	<p>(1) ア・授業に関する生徒問題事象数の減少 ・アンケート結果および教員からの聞き取りにより判断 (2) ア・将来像の具体案について発案されたか(放課後、土曜日活用) イ・担任と各分掌がより綿密に連携が図れるようになったか。(教員へのアンケートの実施)</p>	<p>(1) ア・全体として授業については、大きな問題は起こらず展開された。生徒による授業アンケート結果の分析からも概ね授業について生徒は満足している。ただ、一部の教員の授業で人間関係などから、同一生徒との間にトラブルが発生したが、その後の話し合いなどにより落ち着いている。教員からも1年生を中心に落ちついている声を聞いている。(○) (2) ア・将来の5学科構想に備えるため、教員を5グループに編成するよう進めてきたはずであったが、連絡、意思疎通不足により1学科で進んでいなかった。次年度への大きな課題としたい。(△) イ・各学年主任より意見を集約した。概ね学年団は機能している。ただ、一部坦副の連携、分掌との連携がうまく機能していない部分もあった。(○)</p>
-------------------------------------	---	--	---	---